

平成25年度 学校評価実施報告書

(京都市立 久世中 学校・園)No.1

1 平成25年度 重点評価項目

家庭教育力の向上・読書活動の推進・授業改善・自己有用感の育成

2 1回目評価

2-① 自己評価 【 評価日 : 平成25年7月11日～18日

評価者・組織(名称) : 生徒、保護者、教職員

】

	分野	評価項目	評価指標	分析(成果と課題)	改善策
1	確かな学力	基礎・基本の徹底	学校評価アンケート 各種学力調査結果の分析	今年度は「家庭学習ノート」の取組を全学年5教科で始めたが、少しずつ定着しつつある。毎日の「朝読書」も各学年集中して取り組めている。しかし、家庭学習時間は昨年度と比較しても思ったほど増加していない。学力調査の結果も、各学年・各教科とも伸び悩んでいる。教職員のアンケートでも「授業改善」「考察が残せるノートづくり」などの項目は教職員の実現度が低く、意識の改革が必要である。	活用型・探求型の授業へ移行するため、研修会、公開授業、授業研究会を活用し、教職員の意識の向上を図りながら教科の枠にとらわれない取組を推進する。家庭学習習慣の定着を図るため、優れた「家庭学習ノート」を教室・廊下に掲示するなど「家庭学習ノート」の取組を一層進める。また、「朝読書」以外の読書の習慣化を目指し、図書室を活用した授業に取り組んだり、地域の図書館との連携を深め、読書活動をより一層推進する。
		授業改善	学校評価アンケート 授業研修・研究協議		
		家庭学習の充実	学校評価アンケート 課題設定・授業とのリンク		
		読書の習慣化	学校評価アンケート 読書活動		
2	豊かな心	規範意識の向上	学校評価アンケート 学校のきまり	ここ数年のアンケート結果から、ほとんどの生徒は、規範意識や自己有用感が高まってきており、楽しく落ち着いた学校生活を送れている。「ありがとうやごめんなさいが素直に言える」など、気持ちよく挨拶する生徒が増えてきており、ピア・サポートの取組の成果も出てきている。しかし、「進路について考え行動する」「何かに挑戦しようとする気持ちをもつ」などの項目について生徒のニーズ度が高い。	ほとんどの生徒に規範意識の向上・定着は見られるが、小さなトラブル、迷惑行為はまだ発生している。小さな変化を見逃さず組織で丁寧に対応していく。3年生をリーダーとして育成する視点を大切にして、ピア・サポート活動を推進する。大きな視野をもてるよう地域だけでなくさまざまなボランティア活動への参加する意欲を高めたい。
		人権教育	学校評価アンケート 人権学習作文		
		豊かな心の育成	学校評価アンケート 道徳授業の充実		
		自己有用感の向上	学校評価アンケート ピアサポート事業の実施		
3	健やかな体	基本的生活習慣の確立	学校評価アンケート 保健室利用状況	基本的生活習慣については、まだまだ十分といえない結果である。特に「朝食の喫食」「7時間以上睡眠」については、学年が進行するにつれてきていないと回答する生徒が増加傾向である。教職員、保護者のニーズ度は相変わらず高いがあまり改善していない。保護者、学校が連携し効果的・継続的な取組が必要である。	基本的生活習慣の確立に向け、引き続き「学校だより」「保健だより」「久世スタンダード」「地域懇談会」などを通して保護者への啓発を進めたい。子どもたちには、生徒会活動(保健委員会など)を活用して生活リズムの大切さを学ぶ場を与えたい。
		体力の向上	学校評価アンケート 体育系部活動の参加		
		食育の推進	学校評価アンケート 学校保健委員会		
4	学校・家庭・地域の連携	小中一貫教育の推進	学校評価アンケート 小中が連携する各取組	子どもたちの将来を見据えた小中連携を基盤にした小中一貫教育は充実しつつある。「久世スタンダード(保護者版)」を活用した「PTAカレンダー」を毎月発行し、啓発を進めている。また、HPも更新回数を増やすことにより閲覧回数も増加している。しかし、オープンスクール、体育祭などの学校行事には多くの方が参観されるが、学級懇談会の出席者は少ない。	小中一貫教育をさらに推進するため「久世スタンダード」の地域への広報・周知をすすめたい。また、「久世スタンダード」の改訂版を今年度中にまとめることにより教職員の意識向上を図る。平成26年度からはじまる「久世PTA連合規約」がスムーズに実行できるよう「久世PTA連合理事会」がイニシアチブを発揮していきたい。
		参観・参加・活動	学校評価アンケート 参観・参加数、活動状況		
		情報発信の充実	学校評価アンケート 学校だより・HPの更新状況		
		家庭(PTA)連携の充実	学校評価アンケート PTA活動		

2-② 学校関係者評価 【 評価日 : 平成25年10月15日

評価者・組織 : 学校運営協議会、学校評議員 (いずれかに○) 】

評価結果	改善に向けた支援策
久世校区の課題を明らかにされ、小学校や中学校だけでなく、久世校区の教育機関と連携され、課題解決に向け、着実に一歩ずつ取組が展開されている。学力向上については、全国学力・学習状況調査や学習確認プログラムの結果などから考えると、生徒の学力の二極化が見えてくる。学習塾にも行って自分で家庭学習習慣が定着している十分学力の高い生徒がいる反面、テレビやスマートフォンなどの誘惑に負け家庭学習習慣が定着してしない生徒がいる。久世中学校では、下位層に当てはまる生徒の割合が高いと考えられる。	久世校区の教育の実態がよく理解でき、久世三校がめざす取組に対し、支援できる体制づくりを考えてきた。地域・保護者に声かけをするだけでなく、懸案事項である学校支援ボランティア組織がつくれるよう努力していきたい。進路学習を1年時から充実して行い、大学に進学したり企業に就職した卒業生のような生徒に近い年齢の先輩たちの話を聞く機会を生徒たちにつくれるよう支援していきたい。

3 2回目評価

3-① 自己評価 【 評価日 : 平成25年12月16日 評価者・組織(名称) : 生徒・保護者・教職員 】

	分野	評価項目	評価指標	分析(成果と課題)	改善策
1	確かな学力	基礎・基本の徹底	学校評価アンケート 各種学力調査結果の分析	各種学力調査の結果から、子どもたちの学力が伸び悩んでいることが伺える。ここ数年校区の小学校と連携し「家庭学習習慣」「読書習慣」の定着に取り組んでいるが成果が出ていないとはいえない。3年生は、進路決定を控え自分の進路について考えて行動する傾向が大きくなり、家庭学習時間も増加している。わかりやすい授業を目指しての授業改善は、教職員の意識の向上が見られる。毎朝の「朝読書」は各学年集中して取り組めているが、学校外での読書習慣が定着していない。	活用型・探求型の授業へ移行するため、学力向上委員会・教科会・研修会・公開授業週間・3校合同授業研究会を活用し、教職員の意識の向上を図りながら教科の枠にとられない取組を推進してきた。家庭学習習慣の定着を図るため、優れた「家庭学習ノート」を教室・廊下に掲示するなど「家庭学習ノート」の取組を一層進めたい。また、「朝読書」以外の読書の習慣化を目指し、図書室を活用した授業に取り組んだり、地域の図書館との連携を深め、読書活動をより一層推進していきたい。
		授業改善	学校評価アンケート 授業研修・研究協議		
		家庭学習の充実	学校評価アンケート、家庭学習ノート 課題設定・授業とのリンク、		
		読書の習慣化	学校評価アンケート 読書活動		
2	豊かな心	規範意識の向上	学校評価アンケート 学校のきまり	ほとんどの生徒は、規範意識や自己有用感が高まってきており、楽しく落ち着いた学校生活を送っている。子どもたち自ら気持ちよく挨拶する生徒が増えてきており、アンケート結果からも、「ありがとうやごめんなさいが素直に言える」などの実現度が高く、ピア・サポートの取組の成果も出てきている。しかし、「進路について考え行動する」などの項目について下級生のニーズ度が高くなっている。	ほとんどの生徒に規範意識の向上・定着は見られるが、小さなトラブルや地域に対する迷惑行為が全くなかったとはいえない。今後も小さな変化を見逃さず組織で丁寧に対応していきたい。アンケート結果から「自分の思いや考えを相手にわかりやすく伝えようとする」の実現度が各学年低くなっている。「久世スタンダード」の実行力を引き出すための具体的な取組について各教育機関と議論を深めていきたい。
		人権教育	学校評価アンケート 人権学習作文		
		豊かな心の育成	学校評価アンケート 道徳授業の充実		
		自己有用感の向上	学校評価アンケート ピアサポート事業の実施		
3	健やかな体	基本的生活習慣の確立	学校評価アンケート 保健室利用状況	ここ数年の取組から「朝食の喫食」について「できている」と回答する生徒が増加しており、各学年とも実現度は高い数値を示している。しかし、その朝食の内容は偏っており必ずしも十分とは言えない。なかなか実現度が高くない「十分な睡眠時間をとる」も含めさらに基本的な生活習慣の確立を目指した取り組みを進める必要がある。	「朝食の喫食」「十分な睡眠時間をとる」など基本的な生活習慣の確立については、子どもたちの幼少期から家庭への働きかけを粘り強く継続する必要がある。今後も「久世教育機関協働協議会」を中心に久世の教育機関が連携して取組を継続していきたい。また、「久世スタンダード(保護者版)」の啓発をさらに進めたい。
		体力の向上	学校評価アンケート 体育系部活動の参加		
		食育の推進	学校評価アンケート 学校保健委員会		
4	学校・家庭・地域の連携	小中一貫教育の推進	学校評価アンケート 小中が連携する各取組	ここ数年、小中連携・小小連携・保小中教育機関の連携などによる協働の取組が活発に行われてきた。それを確実なものにするために課題意識の共有を進めていく必要がある。また、今年度、久世地域における教育課題解決と小中一貫教育推進の基盤となる家庭の教育力を向上させるため、『連携と共同』をキーワードにした「共同機構 久世PTA連合規約」を久世三校合同で作成し、平成26年度から実施する予定である。	小中一貫教育をさらに推進するため、久世地域における教育課題の認識と共有をはかり教職員の意識の向上を図りたい。さらに「久世スタンダード」の地域への広報・周知をすすめ、「久世スタンダード」の改訂版を今年度中にまとめることにより久世三校教職員の連携を進めたい。平成26年度からはじまる「久世PTA連合規約」がスムーズに実行できるよう「久世PTA連合理事会」がイニシアチブを発揮していきたい。
		参観・参加・活動	学校評価アンケート 参観・参加数、活動状況		
		情報発信の充実	学校評価アンケート 学校だより・HPの更新状況		
		家庭(PTA)連携の充実	学校評価アンケート PTA活動		

3-② 学校関係者評価 【 評価日 : 評価者・組織 : 学校運営協議会 学校評議員 (いずれかに○) 】

評価結果	改善に向けた支援策
家庭学習の習慣をつけるために本年度より5教科で「家庭学習ノート」の活用を始めた。その効果により、学習の大切さを自覚し始めた生徒も少しずつ増えてきている。しかしながら現状には気づけていない生徒もあり、その対策が必要と考えられる。 ほとんどの生徒については規範意識は高まりつつあるが、その反面日常的な挨拶ができる生徒が少なくなっている。「あいさつ運動」のような取組期間だけでなく、日常のコミュニケーションの大切さを感じさせる必要がある。 朝食の習慣が増えてきていることは好ましい、今後は保護者を含めて食事内容についての啓発を進める機会をもちたい。	学習の方法を示し、やるように指導するだけでは家庭学習習慣の定着は難しい。生徒・保護者に学習の大切さを理解してもらい、成果に対して相手に伝えられる評価法を考えていく。 ○○運動期間の取組については、生徒・教職員とも熱心に取り組んでいる。その反面、日常生活の場面においては高い意識を持ち続けられない。生徒会役員生徒、教職員が生徒・保護者に対して日ごろから意識して行動するように心がけ、他の生徒の意識も高めていく。

4 総括・次年度の課題

図書館の開館はボランティアの方の協力を得られている。また、地域のボランティア活動に生徒たちも参加している。しかしながらどちらも少数の参加であり大きな広がりのあるものになっていない。ボランティア活動だけではないが、校内外のいろいろな取組を行事としてこなすだけでなく、その目的、大切さを考えることにより「質」の向上をあげる時期に来ていると考える。自分がしていることがどのように役立っているのかを生徒たちに知らせ、適切に評価していくことにより自己有用感を育てることができる。
生徒の自信を育てることにより、学力や心・体の成長につながる効果は向上すると考える。取組に対する「量」においては十分蓄えられてきているので、今後は「質」に注目していきたい。